

## 様式Ⅲ 総合診断

樹木No.		樹木名	サカキ
調査期間	2019.9.8	記入者	NPO法人岡山県樹木医会
周辺環境の影響	<p>当該樹木は、岡山県中部吉備高原を流れる高梁川の西側山地にあり、標高325m、北向きの尾根に位置している。集落一帯は主に畑地で、すぐ東は所有者の家屋と隣接し、北にはお社が祀られ、西側は通路を隔てて畑があり、南側は砂利敷きの空地となっている。東の家屋は約2.5m低い地盤に建っているため、サカキの日照、通風条件は良好である。</p>		
根系・根元土壌の状況	<p>根元は草本類が生え、砂利敷きの通路と空地に続く。東は高さ2.5mの崖となって1段低く、自然石の石積みと石段、コンクリートの擁壁が作られている。植生の間にはサカキの根が露出しており、水平、垂直方向に伸びている。検土杖による調査では、表土は黒色でやや腐植分があり、深さ約20cmまでは粘土層、その下は砂壤土であった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> 		
大枝・幹の状況	<p>主幹は先端が枯れて欠損しており、高さ2.5m付近には腐朽部が見られる。また高さ80cm付近にはツリガネタケの子実体が発生している。その他、開口腐朽や樹皮欠損は見当たらない。</p>		
樹冠・枝葉の状況	<p>樹冠東側は主に枯れており、西側も葉が少なく衰退傾向である。そのため、中段から下段の枝葉が充実し、新たな樹冠が形成されている。全体に葉は小さいが、色は緑色を呈している。</p>		
その他	<p>所有者によると、かつて家屋の東側にあった杉の防風林を伐採している。</p>		
考察	<p>樹冠が枯れた主な原因としては、2016年から2018年にかけて、冬期の低温と風との影響が考えられる。高梁の観測地点で最低気温がマイナス8℃を下回ったこと(2016年1月)もあり、より標高の高い現地では、さらに低温と極度な寒風に当たって樹冠の葉が傷んだ可能性がある。防風林の伐採時期は明確ではないが、サカキへの風当たりが一層増したことは推察できる。</p>		
総合判定	<p>地上部の衰退度判定では、衰退度はⅢの「不良」であった。これは、自然樹形の崩壊、樹冠の枝枯れが判定に大きく影響している。下枝の葉は密度、色ともに健全であり、枯枝剪定後はひと回り小さくなった新しい樹冠となる。</p>		